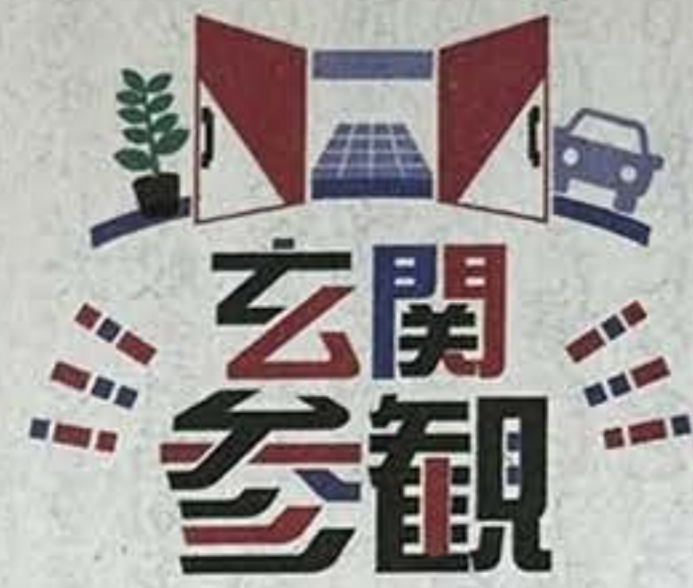


社員、顧客の幸せ追求



沢根スプリング 浜松・中央区

ばね製造の沢根スプリング（浜松市中央区）本社の建物に入ると、同社のイメージカラーの「黄色」が眼前に広がった。壁や階段は鮮やかに。ショーケースに

飾られたばねの塗装は深みのある黄色だ。

映画「幸福の黄色いハンカチ」、**「見ると幸せになる」**とも言われる新幹線のドクターイエロー、時には**「金運を高める」**アイテムとして紹介されるなど、ポジティブで**「幸せ」と関連づけて語られることが多い**。壁に描かれた同社のイメージキャラクター「ばねったくん」も陽気に笑っている。

「黄色は『幸せ』の象徴。まず社員が幸せになることが顧客の喜びにもつながる」。沢根巨樹社長（40）が強調する。

顧客も喜ぶ「幸せ」とは何か。沢根社長は「趣味や勉強に打ち込むことが結果的に仕事に生きてくる」と話し、業務時間以外を有意義に過ごす重要性を説く。近年の社員1人当たりの残業時間は月に2時間未満。有給取得率が100%近くになる年もある。

まさに仕事以外の趣味が起点になったのが、玄関に展示しているキャンプギアブランド「ノラホリック」だ。キャンプ好きの社員2人が2021年に設立。ラ

ンタンシエードやたき火台など、一連の製品は遊び心にあふれたデザインと機能性を兼ね備える。評判を呼び、全種類の製品を購入した客もいるという。

商品と柔軟に向き合う姿勢は全社的に表れている。ばねメーカーという自動車産業の動向に左右されそうな印象もあるが、製品の販売先のうち自動車関係は3割程度。医療機器や電子メーカー、商社など取引先は多岐にわたる。

「大量の部品を納期までに、マニュアル通りにつくる仕事だけではない」と沢根社長。幅広い業界との取引には、景気に左右されにくい経営基盤をつくるだけでなく、思考停止に陥らずに企業ごとの対応を考え続ける意味もある。「社員が成長し、仕事も楽しくなる」と語る。

創業以来の黒字を続けることも評価され、14年には、人を幸せにする経営を実践する企業を表彰する「日本ではいちばん大切にしたい会社」大賞の中小企業庁長官賞を受賞。今も県内外の企業の見学が絶えない。

沢根社長は「ただ、ばねをつくるだけではない。『小さな異色企業』を目指し続けたい」と力を込める。（鈴木みのり）

会社の「顔」募ります

ユニークな玄関を構えた会社の情報を、自薦、他薦を問わずお待ちしています。左側帯のメールアドレスやQRコードを通じてお送りください。



①入り口付近を紹介する沢根巨樹社長。右奥の壁にイメージキャラクター「ばねったくん」が描かれている
②キャンプギアブランド「ノラホリック」の製品を紹介するコーナー。いずれも浜松市中央区で



沢根スプリング 1966年、沢根巨樹社長の祖父の好孝さんが創業した。生産したばねや、技術を生かした製品が自動車や内視鏡、ロボット、釣り具など幅広い用途に使われている。従業員数は約50人。関連会社のサミニ（浜松市中央区）で、ばねの通信販売を手がけている。

「仕事は幸せになる手段」

遠州鉄道の丸山晃司社長が1月31日、遠鉄グループの事業や働くこと

を感じられる天職に出合うためにも、好きなこと、できることを増やしてほしいと期待を寄せた。